ヒト、イノシシと出会う

縄文時代以降、イノシシはシカと並ぶ狩猟の対象でした。イノシシとヒトとの出会いは、それを狩る道具、弓矢の普及とも関連します。イノシシは食料としてだけでなく、骨や牙は装飾品に加工されるなど無駄なく利用されました。

その後も弥生時代の絵画銅鐸、古墳時代の猪形埴輪などに狩猟の対象としてのイノシシの姿があります。この時代、狩猟は単なる食糧源の確保だけでなく、儀礼的な側面もありました。人々が豊穣などを祈るうえで、イノシシは特に意味を持った動物だったのでしょう。

ヒト、ブタを飼う

イノシシは野生動物の中でも雑食性で環境への適応力が高く、多産であることから家畜に適していたようです。イノシシを家畜化したものがブタです。

西アジアや中国では、約9,000年前にイノシシの家畜化が行われます。家畜とは、野生動物を人間に都合のよい動物に変化させたものです。

日本では弥生時代に入ると遺跡から出土する獣骨の中でイノシシの骨の占める割合が高くなります。その骨を詳細に調査すると、頭骨が○○○するなど家畜化の特徴を示すものが含まれていることから、稲作の伝来と時を同じくして新たにブタ（弥生ブタ）が日本に持ち込まれたと考えられています。

その後、仏教の影響で肉食や殺生がたびたび禁止されますが、断続的にブタの飼育は行われたようです。新しい品種のブタが海外よりもたらされ、時代や地域によって大小いくつもの品種のブタが存在していたことが遺跡出土の獣骨の調査からうかがえます。

イノシシ年は、ブタ年？！

現在、十二支のあるアジアの国々のなかでイノシシ年があるのは日本だけ。中国をはじめとする国々ではブタ年です。中国語では、イノシシは「野猪」、ブタは「家猪」と区別されています。ブタは、祖先のイノシシと同様に多産であることから、豊穣を象徴し、繁栄や蓄財にむすびつくおめでたい動物とされています。

イノシシとブタは同じ種で、野生のイノシシ、飼育されたイノシシ、家畜化したブタを骨格などから区別することは簡単でありません。品種改良が進んだ現代のブタも、野生化するとイノシシのような姿に先祖返りするそうです。

鏡に表されているのはイノシシでしょうか、それともブタ？

＜参考文献＞

かみつけの里博物館『イノシシの考古学』2015年
新美 倫子 「亥　イノシシ」『十二支になった動物たちの考古学』新泉社 2015年
黒澤 弥悦 「イノシシがブタになるときーどのように始まるのだろうか？」All about SWINE 43　日本SPF豚研究会　2013年
川瀬 由照 『十二支　時と方位の意匠』日本の美術№518　ぎょうせい　2009年

主　　催　兵庫県立考古博物館加西分館
後　　援　兵庫県　兵庫県教育委員会

平成30年度 冬季スポット展示　解説資料

干支（えと）亥（い・がい）

平成31年 1月2日 水 ～ 3月12日 火

平成31年はイノシシ年です。本来、方位を表す「亥」（い、がい）は、イノシシとして表され、十二支の12番目にあたります。

イノシシは、「猪突猛進」や「猪武者」など無鉄砲に進む者の例えに用いられ、なにかと負のイメージが強い動物です。しかしヒトとの関わりは古く、日本では少なくとも縄文時代までさかのぼります。

今回のスポット展示では、十二支が鏡に登場する方格規矩四神鏡をご覧いただき、そこに表された「亥」、「イノシシ」と人との関わりについて解説します。

鍍金方格規矩四神鏡
（新（王莽）　約2,000年前）

兵庫県立考古博物館 加西分館
古代鏡展示館
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

10種類の十干と、12種類の十二支を組み合わせた60種類の十干十二支の表（西暦や元号が使われる以前、年を表すために使われた。60年で一巡するので、「還暦」のことばが生まれた）

通番		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
十干	漢字	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸
	音読み	こう	おつ	へい	てい	ぼ	き	こう	しん	じん	き	こう	おつ	へい	てい	ぼ	き	こう	しん	じん	き	こう	おつ	へい	てい	ぼ	き	こう	しん	じん	き	こう	おつ	へい	てい	ぼ	き	こう	しん	じん	き	こう	おつ	へい	てい	ぼ	き	こう	しん	じん	き
	訓読み	きのえ	きのと	ひのえ	ひのと	つちのえ	つちのと	かのえ	かのと	みずのえ	みずのと	きのえ	きのと	ひのえ	ひのと	つちのえ	つちのと	かのえ	かのと	みずのえ	みずのと	きのえ	きのと	ひのえ	ひのと	つちのえ	つちのと	かのえ	かのと	みずのえ	みずのと	きのえ	きのと	ひのえ	ひのと	つちのえ	つちのと	かのえ	かのと	みずのえ	みずのと	きのえ	きのと	ひのえ	ひのと	つちのえ	つちのと	かのえ	かのと	みずのえ	みずのと
		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
通番		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
十二支	漢字	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑
	音読み	し	ちゅう	いん	ぼう	しん	し	ご	び	しん	ゆう	じゅつ	がい	し	ちゅう	いん	ぼう	しん	し	ご	び	しん	ゆう	じゅつ	がい	し	ちゅう	いん	ぼう	しん	し	ご	び	しん	ゆう	じゅつ	がい	し	ちゅう	いん	ぼう	しん	し	ご	び	しん	ゆう	じゅつ	がい	し	ちゅう
	訓読み（十二生肖）	ね	うし	とら	う	たつ	み	うま	ひつじ	さる	とり	いぬ	い	ね	うし	とら	う	たつ	み	うま	ひつじ	さる	とり	いぬ	い	ね	うし	とら	う	たつ	み	うま	ひつじ	さる	とり	いぬ	い	ね	うし	とら	う	たつ	み	うま	ひつじ	さる	とり	いぬ	い	ね	うし

通番		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
十干＋十二支（干支）	漢字	甲子	乙丑	丙寅	丁卯	戊辰	己巳	庚午	辛未	壬申	癸酉	甲戌	乙亥	丙子	丁丑	戊寅	己卯	庚辰	辛巳	壬午	癸未	甲申	乙酉	丙戌	丁亥	戊子	己丑	庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉	庚戌	辛亥	壬子	癸丑
	音読み	こうし	いっちゅう	へいいん	ていぼう	ぼしん	きし	こうご	しんび	じんしん	きゅう	こうじゅつ	いつがい	へいし	ていちゅう	ぼいん	きぼう	こうしん	しんし	じんご	きび	こうしん	いつゆう	へいじゅつ	ていがい	ぼし	きちゅう	こういん	しんぼう	じんしん	きし	こうご	いつび	へいしん	ていゆう	ぼじゅつ	きがい	こうし	いっちゅう	へいいん	ていぼう	ぼしん	きし	こうご	いつび	へいしん	ていゆう	ぼじゅつ	きがい	こうし	いっちゅう
	訓読み	きのえね	きのとうし	ひのえとら	ひのとう	つちのえたつ	つちのとみ	かのえうま	かのとひつじ	みずのえさる	みずのとり	きのえいぬ	きのとい	ひのえね	ひのとうし	つちのえとら	つちのとう	かのえたつ	かのとみ	みずのえうま	みずのとひつじ	きのえさる	きのとり	ひのえいぬ	ひのとい	つちのえね	つちのとうし	かのえとら	かのとう	みずのえたつ	みずのとみ	きのえうま	きのとひつじ	ひのえさる	ひのとり	つちのえいぬ	つちのとい	かのえね	かのとうし	みずのえとら	みずのとう	きのえたつ	きのとみ	ひのえうま	ひのとひつじ	つちのえさる	つちのとり	かのえいぬ	かのとい	みずのえね	みずのとうし
	大正13年	大正14年	昭和元年	昭和2年	昭和3年	昭和4年	昭和5年	昭和6年	昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年	昭和12年	昭和13年	昭和14年	昭和15年	昭和16年	昭和17年	昭和18年	昭和19年	昭和20年	昭和21年	昭和22年	昭和23年	昭和24年	昭和25年	昭和26年	昭和27年	昭和28年	昭和29年	昭和30年	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年	昭和35年	昭和36年	昭和37年	昭和38年	昭和39年	昭和40年	昭和41年	昭和42年	昭和43年	昭和44年	昭和45年	昭和46年	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年
	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年																

通番		51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
十干＋十二支（干支）	漢字	甲寅	乙卯	丙辰	丁巳	戊午	己未	庚申	辛酉	壬戌	癸亥
	音読み	こういん	いつぼう	へいしん	ていし	ぼご	きび	こうしん	しんゆう	じんじゅつ	きがい
	訓読み	きのえとら	きのとう	ひのえたつ	ひのとみ	つちのえうま	つちのとひつじ	かのえさる	かのとり	みずのえいぬ	みずのとい
	大正13年	昭和49年	昭和50年	昭和51年	昭和52年	昭和53年	昭和54年	昭和55年	昭和56年	昭和57年	昭和58年
	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年

＋干 ＋ 十二支 → 干支（十干十二支）

（例） 甲（こう） ＋ 子（し） → 甲子（こうし）

干支（えと）とは

日本では、「君は何年生まれ？」「私はウマ年だよ」など、生まれた年を表すために、動物の「干支（えと）」が使われます。この干支（えと）には「ね、うし、とら、う、たつ、み、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、い」の12種類があり、それぞれ「ねずみ、牛、トラ・・・」といった動物をイメージし、「ウマ年だったら、お人好しだね」などと言うことがあります。

こうした干支（えと）は、いつ、どのようにして始まったのでしょうか。

干支（えと）のはじまり

「えと」の漢字である「干支」は、本来「かんし」と読み、「十干十二支（じっかんじゅうにし）」を省略した言葉です。そこには現在のような動物の意味は含まれていませんでした。

「十干（じっかん）」は、「甲（こう）・乙（おつ）・丙（へい）・丁（てい）・戊（ぼ）・己（き）・庚（こう）・辛（しん）・壬（じん）・癸（き）」の10種、「十二支（じゅうにし）」は、「子（し）・丑（ちゅう）・寅（いん）・卯（ぼう）・辰（しん）・巳（し）・午（ご）・未（び）・申（しん）・酉（ゆう）・戌（じゅつ）・亥（がい）」の12種があります。この十干と十二支を順につなげていくと、60通りの組み合わせ（10と12の最小公倍数）ができます（上の表）。これが「十干十二支」です。中国の商（殷）の時代（約3,500年前）には、この十干十二支を使って60日で１サイクルとなる暦を表していました（遺跡出土の甲骨文字から）。

後になってから、方位や年を表すようになり、元号（「昭和」や「平成」など）や西暦が使われるようになるまで、60年で１サイクルとなる暦年を示すようになりました。

ちなみに、甲子園球場は竣工した大正13年が「甲子」の年であったことから名付けられました。

十二支が動物に

本来、十二支の「子・丑・寅・・・」は日や方位を示すもので、動物の意味を含みません。それが、遅くとも秦の時代（約2,200年前）になると、なぜか動物が割り当てられるようになり（湖北省雲夢県睡虎地十一号秦墓『日書』）、後漢の時代（約1,900年前）には現在と同じ動物にまとまります（王充『論衡』物勢篇）。動物が割り当てられた十二支は「十二生肖（じゅうにせいしょう）」と呼ばれています。

これが今の日本でいう12匹の動物からなる「干支（えと）」と同じものです。

各方位に配置された十二支

鏡背面の紋様に方位を与えている
（方格規矩四神鏡　新　約2,000年前）

十二支		十二生肖	
子	し	鼠	ねずみ
丑	ちゅう	牛	うし
寅	いん	虎	とら
卯	ぼう	兎	うさぎ
辰	しん	龍	りゅう
巳	し	蛇	へび
午	ご	馬	うま
未	び	羊	ひつじ
申	しん	猿	さる
酉	ゆう	鳥	とり
戌	**じゅつ**	**犬**	**いぬ**
亥	がい	猪（豚）	いのしし（ぶた）